学園だより

学校だより　椿原学園
平成 28 年度　No.4　5．27

修学旅行（小学校・中学校）終わる

中学校（９年生）は、５月１１日（水）～１４日（土）の４日間、関西（神戸・京都・大阪）方面に行ってきました。「人と防災未来センター」にて、21年前に起きた阪神淡路大震災について学ぶことができました。来たる南海地震に向け地震災害時に必要なスキルを身につけるための学習ができました。

小学校（６年生）は、５月１９日（木）～２１日（土）の３日間、広島・神戸方面へ修学旅行に行きました。平和公園や原爆資料館で学習しました。「原爆の子の像」の前で平和集会をし、全校で「平和の願い」を込めて折った「折鶴」を捧げました。戦争の悲惨さや平和の大切さについて考えることができました。

６年生・９年生共に、親元を離れ、学校では、決して学ぶことができない貴重な経験や見聞を広めることができました。生涯忘れることのできない修学旅行になったことと思います。

17　くらし 教育　12版　2016年(平成28年)5月7日（土曜日）　読賣

No.2141 教育ルネサンス　どうする統廃合 2

学ぶ 育む

寮生活で通学時間ゼロ

両親らと、寮生活への期待について語る広瀬君（右端）＝4月7日、高知県檮原町で

4月7日、高知県檮原町の町立椿原小・中学校で、敷地内にある中学生向け寄宿舎「椿の木寮」の入寮式が行われた。新入生23人のうち希望する10人（男子5人、女子5人）が入寮、堅田謙洋校長(54)は、「互いに助け合って楽しい3年間を過ごしてほしい」と励ました。

入寮した広瀬琳君(12)は、「小学校では約10キロの距離をスクールバスで20分かけて通学していた。寮なら時間を気にせず部活や勉強に打ち込める」と話した。付き添った父の修さん(37)も「集団の中で規律ある生活をしてほしい」と期待していた。

高知県西部の山あいにある同町の人口は約3650人。1950年代後半に1万人を超えたが、今は3分の1に減った。最大で9校ずつあった小中学校は統廃合を繰り返し、5年前、残った3小学校と1中学校が統廃合して同じ校舎で学ぶ「施設一体型」の小中一貫校になった。

椿の木寮は、町内の中学校が3校になった71年、自宅が10キロ以上離れた生徒を対象に開設。十数年前からは、希望すれば距離にかかわらず入寮できるようになった。寮費は食費なども含めて月額1500円。町では、遠隔地に住む生徒への対応のほか、規則正しい生活習慣が身に付き勉強と部活も両立できるとして、中学生の入寮を推奨する。今年度は全生徒の半数の38人が入寮し、週末は自宅に戻る。夜間は交代で泊まり込む教員が1時間半、指導にあたる。

文部科学省の2014年の調査では、公立小中学校に寄宿舎を設置するのは全国の38市町村。統廃合で通学距離が延びた学校や小規模校が設置する例が多いとみられる。愛媛県宇和島市は市立中学2校に寮を設置し、離島などに住む計約20人が入寮する。

文科省は「通学の負担を減らすことのほか、集団生活で子どもの社会性やコミュニケーション能力を高める効果が見込める」としている。

ただ、親元を離れて暮らす難しさなどもあり、椿原小・中学校では小学生は対象外。一貫校になった後は、小学生や入寮しない中学生向けにスクールバス5台、借り上げタクシー2台を用意し、寮生を除く児童生徒の約6割を送迎。最長約40分で通えるようにした。

文科省は昨年、59年ぶりに見直した公立小中学校の統廃合の基準の中で、小学校は4キロ・以内、中学校は6キロ・以内としている徒歩や自転車の通学距離に加え、バス利用などを前提に通学時間の目安を「1時間以内」とし、遠距離の通学を容認した。

だが、バス通学などは体力の低下も懸念される。椿原小・中学校では、小学校の児童が毎日、休み時間にグラウンドで5分走るほか、一貫校のメリットを生かし、中学の体育教諭が小学校の体育の授業も受け持ち運動量を増やすカリキュラムを導入する。

檮原町の久保栄八・町教育長(59)は「寮やバス、一貫教育の活用で、子どもの負担を軽減し、よりよい学習環境を提供したい」と強調する。

左記の記事が五月七日（土）付けの読売新聞に掲載されました。
椿原学園の小中一貫教育（寮生活）のメリットについて書かれた記事です。